

後 期 課 程 試 験 問 題

論述試験 研究計画の概要

本研究科に入学した場合の研究計画の概要を、記述用紙に日本語
600字以内で記入しなさい。

解答には必ず所定の記述用紙を用いること

受 験 番 号

1. _____ 4. _____
2. _____ 5. _____
3. _____

後期課程試験問題

次の言語のうちから、解答する外国語を1つ選んで○をつけ、それぞれの設問に答えなさい。なお、留学生は日本語を選択すること。

英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 朝鮮語

日本語（留学生のみ）

受 験 番 号

英 語

受 験 番 号

※

※印の欄には記入しないこと。

問題 1

次の文を日本語に訳しなさい。

省略

[訳]

英語

受 験 番 号

※印の欄には記入しないこと。

問題 2

最近読んで印象に残った本あるいは論文について、その内容や特徴を英語で説明しなさい。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

[訳]

受 験 番 号

ドイツ語

✱

※印の欄には記入しないこと。

問題 2

最近読んで印象に残った本あるいは論文について、その内容や特徴をドイツ語で説明しなさい。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

受 験 番 号

フランス語

※印の欄には記入しないこと。

問題1

次の文を日本語に訳しなさい。

省略

[訳]

受 験 番 号

フランス語

※印の欄には記入しないこと。

問題 2

最近読んで印象に残った本あるいは論文について、その内容や特徴をフランス語で説明しなさい。

[illegible]

受 験 番 号

ロシア語



※印の欄には記入しないこと。

問題 1

次の文を日本語に訳しなさい。

省略

[訳]

受 験 番 号

ロシア語

※印の欄には記入しないこと。

問題 2

最近読んで印象に残った本あるいは論文について、その内容や特徴をロシア語で説明しなさい。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

中國語

受 験 番 号

✖

※印の欄には記入しないこと。

問題 1

次の文を日本語に訳しなさい。

省略

[訳]

✕

最近読んで印象に残った本あるいは論文について、その内容や特徴を中国語で説明しなさい。

朝鮮語

受 験 番 号

※印の欄には記入しないこと。

問題 1

次の文を日本語に訳しなさい。

省略

[訳]

受 験 番 号

朝鮮語

✖

※印の欄には記入しないこと。

問題2

最近読んで印象に残った本あるいは論文について、その内容や特徴を朝鮮語で説明しなさい。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

日 本 語

受 験 番 号

※

※ この問題は外国人留学生のためのものです。日本人受験者が解答しても無効になりますから気をつけて下さい。

※印の欄には記入しないこと。

問題 1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

たとえば、いまわたしの脳裏に「昨日の書類」のことがちらりとよぎっただけなら、そこで「意味」それ自身は動いていると言えるが、「言語的な意味」はまだ問題となっていない。しかし「書類」を思い浮かべながら、「あれは、まず大丈夫」と内言したとする。このような内言では、「意」は「言葉」と「妥当＝一致」していることが自明であり、まだ問題は起こらない。しかし、たとえばひとりで「まったく猫に小判だ」と独語するつもりでいて、なにかの近接的連合によってふと「まったくブタに小判だ」と独語し、自分でおかしくてつい笑ってしまうなどということがある。「言わんとすること」と「表現」の間に「ズレ」を感じたからである。独語もまた「表現」であり、(1)そこに「妥当＝一致」の自然な確信が生じない場合、われわれはすぐにそれを意識する。このとき「表現」の「意味」が問題になっているのである。

「昨日の書類」を念頭におきつつ、「あれは大丈夫だね」と同僚に言う場合では、言表の意味はある意味で顕在的になる。しかしこの場合でさえ、この言葉が自明のこととして通じるときには、言表の「意味」は問題とはならない。だがさきのように「あれ」が多義性をもつ場合、われわれは「言表」が自分の「意」を“正しく”伝えているかどうか気になる。ここで言葉の「意味」がわれわれにとって問題となり、「意味」が通じていないと思えばこれを言い直したりするのである。

要するにつぎのように言える。自分の「言葉」が自分の「意」を妥当なかたちで表現しているという自然な確信をもつとき、われわれは「意味」の存在についてとくに意識しない。(2)しかし、その事態を反省して対象化するなら、そこにある「意味」が存在し、生きて動いていたということをいつでも確認できる。また、この「妥当＝一致」の確信がうまく生じなかったり、ひび割れたりするときには、そのズレはただちに意識され、われわれは自然に言い直したり付け加えたりする。それが誰も行っていることである。つまり、言語においてわれわれが「意味」と呼ぶものは、基本的に、「意」と「表現」の「妥当＝一致」についての「確信」の意識にかかわっているのである。

(出典：竹田青嗣 (2001)『言語的思考へ』径書房)

問 1 下線部 (1) について、本文例以外の具体的な例を挙げて説明しなさい。

問 2 下線部 (2) について、具体的な例を挙げて説明しなさい。

解答欄

受 験 番 号

「日本語」問題 1

問 1

問 2

